

信心について

平成28年 報恩講 資料

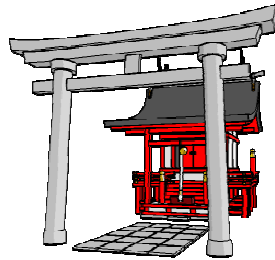
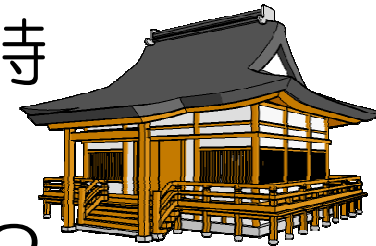


浄土真宗 正信寺 釋英和



信心をもって生きていますか

- お寺に行くのは、お葬式と法事の時
 - ▶ 仏教哲学と先祖崇拝は異なる
- 日本人にとって信心は身近でない？
 - 正月は神社に参拝、クリスマスを祝う



お祭り（イベント）としての宗教になりつつある



信仰と信心

- 信仰

信仰宣言を信じること

- 阿弥陀如来の四十八願によって救われることを信じ、極楽浄土に往生することを願う
- 煩悩からの解脱
- 神を信じ復活（永遠の命）を信じる

- 信心

信仰を深めるための考え方、方法
生活と信仰を橋渡しするもの

- 念仏
- 修行
- 祈り 懺悔（悔い改める）



昔ながらの信心の考え方

- 信仰とは超越願望？
 - 苦（痛み、苦しみ、憎しみなど）からの超越
 - 人の能力からの超越（修験道、ヨガ）
 - 寿命からの超越（永遠の命）
- 超越＝解脱＝心の平安 という考え方
- 超越するための修行が信心だった
 - 超越した人＝高僧（生き仏）になるのが目的
 - 神の国に入るための祈り



公序良俗を守る信心

- 生活ルールとしての信心
 - そんなことをすると罰（バチ）が当たる
 - 嘘をつくと閻魔様に舌を抜かれる
 - 悪人は地獄に落ちる

合理性の欠如・・・現代では継続が難しい



行動規範としての信心

- 国家のルール < 宗教的価値観
 - 法律は完全でない（江戸時代のお犬様）
 - 圧政で棄教するより殉教（バテレン）
- 道義的責任
 - 価値観（教養、良心、哲学）
神や仏の心と思われるものを行動規範とする

法律を守れば何をしてもよいわけではない



宗教の原理主義と世俗主義

- 原理主義
宗教はこうあらねばならないと他人に強制する
「信仰」ではなく「信念」という

日曜日は安息日で何もしない

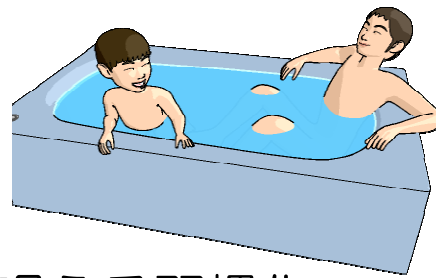
- 世俗主義
実際の生活に合わせ宗教の古い慣習を改め信仰しやすいようにする
原理主義からは、墮落したといわれる

観光客のために日曜日も営業する
(祈りは営業時間外にする)



信心の形骸化・習慣化

- 極楽の概念の形骸化



極楽！極楽！

- 怖い時に念仏を唱える習慣化



なんまんだぶ
なんまんだぶ

「くわばら くわばら」と同じこと
空念仏という

念仏は「行住坐臥を選ばず、時処諸縁を嫌わぬ」
とはいうものの、心のこもった念仏が重要



浄土真宗の信心 本願回向を迷わず信じる

- 二心なく信じる

しかるに『経』に「聞」と言うは、衆生、仏願の生起・本末を聞いて疑心あることなし。これを「聞」と曰うなり。「信心」と言うは、すなわち本願力回向の信心なり。「歡喜」と言うは、身心の悦予の貌（かおはぜ）を形（あらわ）すなり。「乃至」と言うは、多少を摂するの言なり。「一念」と言うは、信心二心なきがゆえに「一念」と曰う。これを「一心」と名づく。一心はすなわち清浄報土の真因なり。

顕浄土真実信文類三（教行信証・信）

実は親鸞聖人は信心を得ることに迷ったのでは？

- 子供に「勉強しなさい」という大人の心境
- 正しいことだが、自分ができなかった経験を伝えているのでは



本願回向を信じること

- 念仏は浄土へのログインパスワードではない
- 念仏は「開けゴマ！」のような呪文ともちがう
- 阿弥陀如来＝仏像ではない 十二光 （目に形が見えない）

他流には「名号よりは絵像、絵像よりは木像」というなり。
当流には「木像よりは絵像、絵像よりは名号」というなり。
（御一代記聞書）蓮如上人

- 十八願を信じること 阿弥陀仏の名前を呼ぶ＝念仏をする
- 念仏することで極楽浄土に往生したいと思う



この世では往生できない

成 等 覺 証 大 涅槃
必 至 滅 度 願 成 就

正信偈「弥陀章」

- この世で覚りを得て、等正覚（真実信心を得た位を往生が決定した正宗聚の位といい、その境地）に至ると、極楽往生できる
＝不退転の位に至る
- 必ず滅度に至って願が成就する（娑婆では往生できない）
- 阿弥陀如来（他力）の願を信じて、極楽往生できる

目先の利益を追うのではなく、現世では希望を捨てない



念仏＝一念の信＝信心なのか

- 『御文』の一帖目第三通「獺・すなどり」の章
まず、当流の安心のおもむきは、あながちに、わがこころのわろきをも、また、妄念妄執のこころのおこるをも、とどめよというにもあらず。
ただあきないをもし、奉公をもせよ、獺、すなどりをもせよ。
かかるあさましき罪業にのみ、朝夕まどいぬる我等ごときのだすらものを、たすけんとかいひます彌陀如来の本願にてましますぞとふかく信じて、一心にふたごころなく、彌陀一仏の悲願にすがりて、たすけましますとおもうこころの一念の信まことなれば、かならず如来の御たすけにあずかるものなり

念仏以外は雑業といわれる

他力を信じて目の前にあることを一生懸命にやることで、安心して生きることも一つの考え方



救われることを信じる安心感

- 生きている世界（娑婆世界）は苦に満ちているが、往生すると救われると信じることで、苦に対する耐性が上がる
- うれしいことにだけでなく、普通のことに対しても感謝の心がわく
生きていくことだけでも、ありがたいと思う
- 死に対する恐怖を和らげる
- 結果がすぐに出ないことに対しても努力できる



幸せのあいうえおの法則

サライ 2016年11月号 湯川れい子（音楽評論家・作詞家）

- あ：会いたい人に会いたい
- い：行きたいところに行きたい
- う：うれしいことがしたい
- え：えらばせてもらいたい（自分で決めたい）
- お：おいしいものが食べたい



自力の幸せ

「あいうえお」が適わないとき、心に葛藤が生じる



Shoshinji © all right reserved



他力を信じると心に光が差す

- あ：会っているひとの縁に感謝
- い：今いるところに行きたいところ
- う：うれしいことを今ある小さなことに見つける
- え：えらんだことに後悔しない
- お：おいしいと感じることがうれしい

他力の幸せ

今の現実を受け入れて、心に光が差す

ここに光（アミターバ）が差すことを願う・・・南無阿弥陀仏



ご清聴ありがとうございました

- 念仏をすることは、
「心に光を」と願うこと
「心に光を感じた」ことを感謝すること
- 念仏（信心）があることで
明るく豊かな生き方をしたいものですね

